
特集 アレルギー疾患とどう付き合うか？ ～診断・治療・予防の最前線～

【巻頭言】

西岡安彦 (徳島大学大学院医歯薬学研究部呼吸器・膠原病内科学分野)
高橋章 (徳島大学大学院医歯薬学研究部予防環境栄養学分野)

アレルギー疾患は過去50年以上にわたり世界的規模で増え続けており、わが国においても国民の2人に1人が何らかのアレルギー疾患に悩まされているのが現状です。一方、2014年(平成26年)6月にアレルギー対策基本法が公布され、「アレルギー疾患を有する者が、その居住する地域にかかわらず等しく科学的知見に基づく適切なアレルギー疾患医療を受けることができ、国民がアレルギー疾患に関し、適切な情報を入手することができる」という基本理念のもと、医療体制の整備が始まりつつあります。2017年3月にアレルギー疾患への対策を総合的に推進するための政府の基本指針がまとめられ、本年度には自治体ごとにアレルギー拠点病院の指定が進んでいます。

このような現状を踏まえ、第257回徳島医学会学術集会におけるシンポジウムのテーマを「アレルギー疾患とどう付き合うか?～診断・治療・予防の最前線～」とし、公開シンポジウムとして一般の方々にも聴講いただける形で、担当の予防環境栄養学分野と呼吸器・膠原病内科学分野で協力して企画および準備をさせていただきました。

開催当日の平成30年8月5日にはたくさんの方々にご参加いただき、5人の講師の先生方から、それぞれの領域の最新の話題についてご講演をいただきました。まず、日本アレルギー学会理事、横浜市立みなと赤十字病院アレルギーセンター長の中村陽一先生から、「期待されるアレルギー専門医とは」という講演タイトルで、アレルギー専門医のあり方と「Total Allergist」の観点から見た望ましいアレルギー専門医像についてご説明がありました。次に、医薬基盤・健康・栄養研究所ワクチンマテリアルプロジェクト&腸内環境システムプロジェクトリーダーの國澤純先生から、「食と腸内細菌から考える腸とアレルギーの密接な関係」という講演タイトルで、

腸管粘膜の免疫防御と食事アレルギーの発症メカニズムおよび食の観点から見た新たな治療法に関する大変興味深いお話をいただきました。続いて徳島大学病院で勤務される3人の先生方から、それぞれ耳鼻科領域、小児科領域、呼吸器領域におけるアレルギー疾患の診療について詳しいご講演がありました。まず、徳島大学大学院医歯薬学研究部耳鼻咽喉科学分野 講師の北村嘉章先生からは、「アレルギー性鼻炎の最新治療・舌下免疫療法」という講演タイトルで、臨床現場で注目されるアレルゲン免疫療法、特に舌下免疫療法の現状について、臨床症例も交えてわかりやすく紹介いただきました。次に徳島大学病院小児科 講師の杉本真弓先生からは、「こどもの食物アレルギー：食べて防ぐ、食べて治す」という講演タイトルで、「安全に食べられる範囲で食べる」という考え方に基づいた治療の変化について興味深い試験成績も交えてお話しいただきました。最後に、徳島大学大学院医歯薬学研究部医療教育学分野(呼吸器・膠原病内科)准教授の吾妻雅彦先生からは、気管支喘息の現状と吸入ステロイド薬による治療の重要性と新たな治療法について紹介がありました。

アレルギー対策としての国の取り組みから、各種アレルギー疾患に対する最新の治療まで、量的にも質的にも充実した講演内容で、参加者にとってはアレルギーを幅広く理解する貴重な機会となった講演会であったと感じています。当日フロアからもたくさんの質問をいただき、アレルギー疾患への関心の高さを伺うことができました。

最後になりましたが、第257回徳島医学会学術集会および公開シンポジウムの準備にご協力いただきました両教室の先生方、貴重なご講演をいただきました先生方に改めて御礼を申し上げ、巻頭言とさせていただきます。